

こどもの虫垂炎の診断

姫路赤十字病院 小児外科

* 虫垂炎の診断

虫垂炎は比較的容易に診断できる場合もありますが、特に小児の場合は類似した症状をきたす疾患が多く、問診・検査が難しいことから診断には熟練を要します。虫垂炎では重症度とともに治療も難しく、合併症も増加するため、早期に診断・治療することが重要です。近年、初期診療の段階での虫垂炎診断においてスコアリングシステム(表1)の有用性が報告されており、日本小児救急医学会が公表した『エビデンスに基づいた子どもの腹部救急診療ガイドライン2017』でもスコアリングシステムを用いたアルゴリズム(図1)が提唱されています。

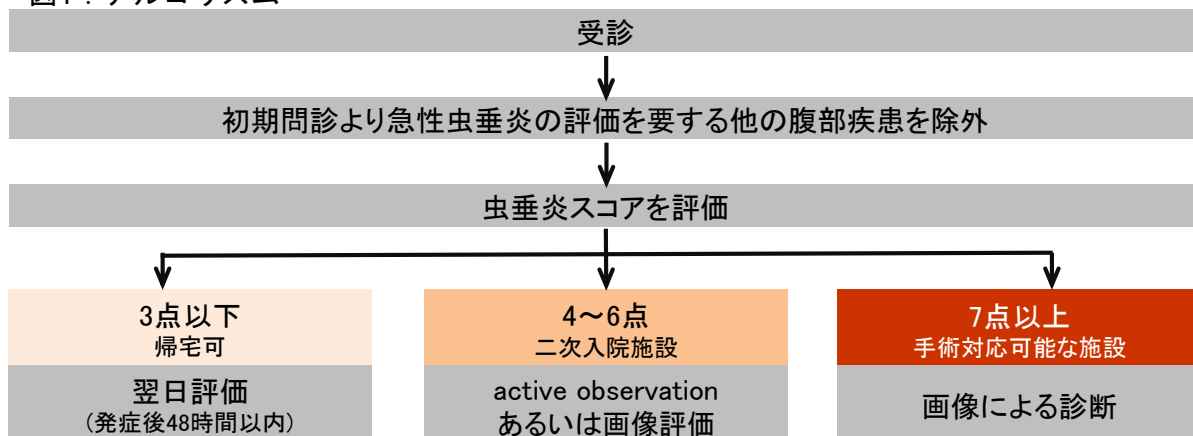
表1:スコアリングシステム

Periatric Appendicitis Score (PAS)	
右下腹部に移動する痛み	1点
右下腹部痛	2点
咳・跳躍・打診による叩打痛	2点
嘔気・嘔吐	1点
食欲不振	1点
発熱(38°C以上)	1点
白血球数増加(10000/mm ³ 以上)	1点
左方移動(好中球7500/mm ³ 以上)	1点

* 合計スコア7点以上で急性虫垂炎と診断

* Samuel M. Pediatric appendicitis score. J Pediatr Surg. 2002;37(6):877-881.

図1: アルゴリズム



* エビデンスに基づいた子どもの腹部救急診療ガイドライン2017 より

* active observation: 経口摂取禁止の状態で行い4~8時間おきに身体診察や白血球数、好中球数などの検査を繰り返すこと